



イメージキャラクター  
みどりちゃん

### 「冬の五郎兵衛村」

表紙の写真は第15回「美しく豊かな農村づくり写真コンクール」でNICE NOSON賞を受賞した秋田県横手市の「かまくら」を写した作品です。「かまくら」とは、約450年の歴史を持つ、水神様をまつる横手の小正月行事です。かまくらの中にまつられた水神様にお神酒・お餅などをお供えし、門松やしめ縄を燃やすことで家内安全、商売繁盛、五穀豊穰などを祈願する行事でしたが、観光化が進み、現在のような形になりました。

かまくらの中に灯された明かりのように今年1年が皆様にとって明るく、幸多き年でありますようにお祈り申し上げます。

撮影者／高橋 真一 様

# あきたの 518 2022.1.17 かちと

## 謹賀新年



TOPIC 1

### 新年挨拶

TOPIC 2

### 農業農村整備の集い

## 目次

### CONTENTS

新年挨拶

- ・ 本会会長【高貝久遠】 2
- ・ 秋田県知事【佐竹敬久】 3
- ・ 全国土地改良事業団体連合会会長【二階俊博】 4
- ・ 全国水土里ネット会長会議顧問、参議院議員【進藤金日子】 5
- ・ 全国水土里ネット会長会議顧問、  
農林水産大臣政務官、参議院議員【宮崎雅夫】 6
- 農業農村整備の集い 7
- 東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会が要請活動 7

令和4年度農業農村整備事業関係予算 8

- 第5回インフラメンテナンス大賞 10
- 湯沢雄勝土地改良区が農林水産大臣賞を受賞
- 「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2021審査結果について 10
- 秋田の原風景を守り継ぐフォーラム2021in横手 11
- 連合会日誌 11
- 謹賀新年（新年挨拶） 12
- 第64回通常総会開催予定 12
- 編集後記 12

# 新年のごあいさつ



秋田県土地改良事業団体連合会  
(水土里ネット秋田)

会長 高貝 久遠

明けましておめでとうございます。

皆様には、御家族おそろいで、輝かしい新春をお迎えになったことと、心からお慶び申し上げます。

また、平素より農業農村整備事業の推進に多大なる御尽力をいただきとともに、本会の運営に特段の御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は大きな自然災害もなく、水稻の作柄も3年連続で「やや良」となりましたが、新型コロナウイルス禍の影響を受けて業務用米の需要が落ち込んだことから米余りに拍車が掛かり、2021年産米のJA概算金は大幅に下落し、出来秋を迎えた生産現場

に大きな衝撃が走りました。

近年、農業を取り巻く情勢は、生産現場における労働力不足、大規模自然災害の頻発化、農産物のグローバル化、新型コロナウイルス感染症の拡大など大きく変化してきており、本県の農業・農村が持続的に発展していくためには、情勢の変化に適確に対応できる「強い農業・農村」を実現することが重要であります。

このため、引き続き「あきた型ほ場整備」を計画的に推進し、米依存から脱却した複合型農業経営に向けた生産基盤の整備を加速するとともに、高収益作物の導入・定着を図るための水田の畑地化・汎用化や、人口減少下でも生産力の維持・拡大が期待できるスマート農業に対応した基盤整備を推進する必要があります。

また、農業・農村における国土強靱化として、これまでの調査等を踏まえ、ため池などの農業水利施設の防災・減災工事を計画的に進めるとともに、ICTを活用した遠方操作システムの設置等、維持管理の省力化と監視体制の強化を図ることも必要であります。

こうした事業実施に必要な国の農業農村整備関係予算ですが、令和4年度当初予算案は、4,468億円で閣議決定していただき、令和3年度補正予算と合わせると6,300億円となり、本年度と同様、各地域の要望に十分応える予算額を確保できる見込みです。これも水土里ネットが組織を挙げて取り組んだ成果であり、今後とも安定した予算確保に向けて皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

水土里ネット秋田は、農業農村整備事業のエキスパートとして農業政策推進の一翼を担い、本県の農業・農村の持続的発展を実現するために、役職員一丸となって業務に邁進してまいりますので、皆様には、なお一層の御支援、御愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとって、希望に満ち、幸多き一年となりますように心から御祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。

# 年頭のごあいさつ



秋田県知事  
佐竹 敬久

明けましておめでとうございます。

水土里ネット秋田の会員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の世界的規模での流行が続く中、国内にも感染拡大の波が押し寄せました。幸い、ワクチン接種の拡大等により感染の抑え込みが進み、秋以降は日常の生活風景が戻りつつありますが、県内でも多くの業種で影響を受けていることから、県内経済の下支えと活性化を図るための取組を進めているところであります。

一方、県政の喫緊の課題である人口減少問題については、人口流出や出生数の減少傾向は続いているものの、これまでの取組の成果などもあり、直近の県内人口の社会減少数が2年続けて3千人を割り込むなど、人口減少の抑制に向けた兆しも見え始めております。

農業分野においては、全国のトップブランドを目指した水稻新品種「サキホコレ」が昨年11月にプレデビューを果たし、県内外での人気を集めるなど、本年の本格デビューに向け大きな弾みがついたところであります。

これまで県では、「ふるさと秋田農林水産ビジョン」に基づく施策・事業に取り組み、「米依存からの脱却」と「農業産出額の増大」を目標に掲げ、園芸メガ団地の整備等により、複合型生産構造への転換を強力に推進してまいりました。その結果、エダマメやネギ、しいたけ等の園芸品目の生産が拡大し、昨年は農業産出額の増加率が全国トップとなるなど、本県農業の構造改革が大きく前進したところであります。

こうした成果は、生産者を始めとする関係者の努力の賜であります。ほ場整備と農地中間管理事業による農地集積、園芸メガ団地整備等を三位一体で行う「あきた型ほ場整備」が大きな役割を果たしていると認識しております。4月からスタートする「新ふるさと秋田農林水産ビジョン」においても、これまで進めてきた複合化の取組を一層強化するとともに、先端技術を駆使したスマート農業の加速化に必要なほ場整備を着実に推進してまいります。

また、近年の頻発化・激甚化する豪雨、地震等の自然災害に適切に対応し、農村地域の安全・安心な暮らしを実現するため、農業水利施設の長寿命化対策や、防災重点農業用ため池の豪雨・耐震化対策を集中的かつ計画的に推進し、防災・減災や県土の強靱化に努めてまいります。

さらに、中山間地域ならではの農業ビジネスの振興や半農半Xなど新たな兼業スタイルの普及により、関係人口や定住人口の拡大を図り、多様な人材が活躍し、活力ある農山漁村の実現を目指してまいります。

今後とも、本県農業の成長産業化に向け、私自身が先頭に立ち、農業農村整備事業を力強く推進してまいりますので、水土里ネット秋田の会員の皆様におかれましても、より一層のご支援・ご尽力をお願いいたします。

結びに、新型コロナウイルス感染症が一日も早く収束し、世界に平安が訪れることを願いますとともに、新しい年が皆様にとって希望に満ちた飛躍の年となりますようご祈念申し上げ、年頭のごあいさつといたします。

# 新年にあたって



全国土地改良事業団体連合会

会長 二階 俊博

令和4年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

新型コロナウイルスの感染が世界各国で拡大する中で、新しい年を迎えることとなりました。我が国では、ワクチン接種が進み感染者数は減少しているものの、世界的には変異株の感染が拡大し予断を許さない状況が続いております。

皆様には、感染防止のためにできることを今一度ご確認いただき、コロナ禍を共に乗り越えて頂きたいと願っております。

さて、昨年3月に新たな土地改良長期計画が策定され、3つの政策課題に取り組むこととされました。生産基盤の強化による農業の成長産業化、多様な人が住み続けられる農村の振興、農業・農村の強靱化といった政策課題に対して具体の施策が定められ、中でもスマート農業実装の加速化、ため池の防災対策の集中的かつ計画的な推進、流域治水の推進は、今後の農業農村整備を進める上で大事な要素となってくるものです。

令和4年度予算につきましては、これらの政策課題の解決に向け、農業農村整備の着実な推進を求める全国の皆様からの熱意ある要請活動により、政府予算案において、4,468億円を確保することができました。この結果、令和3年度の補正予算を含めると6,300億円となります。

皆さまの活動に深く敬意を表しますと共に、心から御礼を申し上げます。

一方、第5次男女共同参画基本計画に続き土地改良長期計画においても土地改良区等の女性理事登用が成果目標とされたところであり、我々、土地改良団体においても将来の組織体制強化のためにも、女性参画を進めていかなければなりません。

私たち土地改良に携わる者としましては、政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におき農業農村の振興に積極的に貢献していくことが重要であると考えております。また、農業農村の維持、発展に大きく貢献していることについて広く国民の皆様にアピールし、共感を得ていく努力も必要であります。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう引き続き奮闘して参りたいと思います。

また、土地改良の代表として進藤金日子参議院議員と宮崎雅夫参議院議員が元気に全国を飛び回り、まさに「車の両輪」となって活躍されています。本年は進藤さんの2回目の闘いとなりますが、今後は、進藤さん、宮崎さんの活動と連携して、更に一層「闘う土地改良」の浸透が図られるよう念じております。

最後になりますが、輝かしい年の初めに当たり、本年も皆様各々の地域において更に農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、新型コロナウイルスの不安が払拭され、本年が全国の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げまして、私の新年のご挨拶といたします。